

きょうと福祉倶楽部だより

2018年 11号

「なんとめでたいご臨終」って？

わたしたちが共感出来る著書「なんとめでたいご臨終」は岐阜で在宅ホスピスの活動を実践する小笠原文雄医師の実践記録です。

わたしたちきょうと福祉倶楽部も年老いても、重い病気に冒されても、障害があっても住み慣れた場所で過ごせる事を目指して活動しています。

先日お亡くなりになった独り暮らしのお年寄りはとても重篤な状態で病院を出て自宅に戻り訪問看護、介護、訪問診療を利用して残された時間を自宅で過ごしました。

彼女が病院から家に戻ったとき、わたしたちの前で「帰ってきたんやなあ」とつぶやきました。

その時には彼女は歩く力さえ失っていました。そして徐々に食べる力も失いました。

自分がどこで「生きるか」、どこで「死ぬか」はその人が決めることです。だからわたしたちは彼女には自宅にいるのか、病院に戻るのかを常に問いました。

だけど彼女から退院後一度も病院に戻りたいという言葉は発せられませんでした。

この家は子育てや先に旅立った夫との暮らしの残像が残る彼女の宝箱です。だから古びた家でも全てが彼女には大切だったのでしょ。

家に帰ることがかなわずという人が多くいる中、彼女のような望む人生の終末を叶える 二れが利用者にとっても支援者にとっても「めでたいご臨終」では無いでしょうか？

人に苦痛を与えて生きてもらう選択と穏やかに臨終を迎える選択。わたしたちは後者の時間をお手伝いしたいと思います。

有限会社 おとくに福祉研究所

〒617-0824

長岡京市天神 4 丁目 7-12 ハイッ
東台 101 号

TEL 075-958-2560

FAX 075-957-2808

E-mail info@fukushi-club.com

きょうと福祉倶楽部

